

2025年8月24日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒375番 (SK 姉)

『日々いかなる時にも』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15章 5, 7, 9~10, 12節 (MM 姉)

『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。』

礼拝讃美歌⇒424番

『主の愛のながうちに』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2章 1~5節 (KH 兄)

さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒476番(旧266番)

『いかなる恵みぞ』

《パン裂き》

聖書⇒創世記3章9節(ES姉)

『主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」』

聖書⇒ルカによる福音書15章1~7節

『徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。』

聖書⇒マタイによる福音書26章26~30節

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒254番(旧307番)

『昨日も今日も永久に』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 17 章 20~21 節 (YN 兄)

『ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。』』

聖書⇒ヨハネによる福音書 11 章 35~37 節

『イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようににはできなかったのか」と言う者もいた。』

聖書⇒創世記 1 章 1 節

『初めに、神は天地を創造された。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 2 節

『更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 13 章 12 節

『わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 17 章 15 節

『わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 16 章 33 節

『これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。』

聖書⇒創世記 12 章 1~3 節 (KH 兄)

『主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷／

父の家を離れて／

わたしが示す地に行きなさい。
わたしはあなたを大いなる国民にし／
あなたを祝福し、あなたの名を高める／
祝福の源となるように。
あなたを祝福する人をわたしは祝福し／
あなたを呪う者をわたしは呪う。
地上の氏族はすべて／
あなたによって祝福に入る。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 4 章 18~22 節

『彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、多くの民の父となりました。そのころ彼は、およそ百歳になっていて、既に自分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を宿せないと知りながらも、その信仰が弱まりはしませんでした。彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していたのです。だからまた、それが彼の義と認められたわけです。』

聖書⇒使徒言行録 16 章 31 節

『二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 3 章 13~14 節

『キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された“霊”を信仰によって受けるためでした。』

礼拝讃美歌⇒196 番（旧 105 番）

『茨の道』

《建徳要旨》